

みて！ふれて！楽しんで！「ほんもの体験」を味わわせる

効果的なイベントの工夫

大淀川学習館

主任主事 山口 京子

大淀川学習館

主事 大門 詩歩

【要 約】

みて！ふれて！楽しんで！「ほんもの体験」をより効果的に行うイベントの開催のため、①いきものを必ず提示すること ②職員と参加者がコミュニケーションを取り合う双向型（参加型）にすること ③季節を感じさせる内容にすることの3つの観点から工夫を行った。参加者は、絵本やパネル、話やクイズなどでいきものの生態を学び、五感でいきものの不思議さを体験した。これらの実践により「ほんもの体験」を味わわせることができた。

はじめに

大淀川学習館は、大淀川に生息しているサカナやチョウ、ホタルやカメなど様々な種類の生体を飼育展示している施設である。

「ほんもの体験」とは、いきものを実際に五感で体感することであり、本館の基本方針にも「自然を実際に見て・触れて・体験をし、大淀川や環境問題について主体的に学ぶことを通して、大淀川の自然や水資源を大切にする心や郷土を愛する心を培うこと」とある。

そこで、より効果的な「ほんもの体験」を実施するため、2つの実践を行った。

- ①昨年度たんじょう祭で行ったイベントを分析し、その成果と課題から効果的な工夫を見出す。
- ②先進地「かごしまメルヘン館」を視察し、効果的な工夫を見出す。

第1章 効果的なイベントを行うための分析と視察

1－1 平成26年度たんじょう祭で行ったイベントの分析

平成26年度のたんじょう祭において、下の4つのイベントを行った。

- ①たんけんクイズラリー

参加者が館内を探検しながら展示物についての問題に答える。

- ②えほんのよみきかせといきもののはなし

事務職員による絵本「にじいろのさかな」の読み聞かせの後、いきものの担当者がうろこの話をする。

- ③くわしくなろう！いきもののはなし

各担当者がいきものの話をする。

④昆虫にへんしん

昆虫に変身できる顔出しパネルとフォトプロップスを設置する。

これら 4 つのイベントを行った成果と課題は、職員アンケートをまとめると次の表 1 のような結果であった。

表 1 平成 26 年度たんじょう祭の成果と課題

| イベント | 成果 | 課題 |
|-------------------------|--|---|
| クイズラリー ①たんけん | <ul style="list-style-type: none"> 館内にヒントがあるので、解きやすく楽しんでクイズをしていた。 職員による採点やクイズをしている参加者に話かけることで、コミュニケーションがとれた。 | <ul style="list-style-type: none"> 問題や回答の文章量の表現に工夫が必要である。 |
| いきもののはなし ②えほんのよみきかせと | <ul style="list-style-type: none"> 生体の見える場所で行ったので、ほんものの体験ができた。 絵本の中のいきものと話をした実際のいきものが同じであったため、子どもたちの興味を引くことができた。 うろこを準備したので、触る体験ができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 「さかなのへや」は、暗くて絵本が見えにくかったので、照明も検討する必要がある。 |
| いきもののはなし ③くわしくなろう！ | <ul style="list-style-type: none"> いきものを準備したので、実際に触れる体験ができた。 そのいきものに詳しい担当者が、わかりやすく話をした。 | <ul style="list-style-type: none"> 物足りなさを感じる参加者もいたので、時間の設定も重要である。 |
| ④昆虫にへんしん | <ul style="list-style-type: none"> 顔出しパネルは、小さな子どもも簡単にできるので、喜んで挑戦していた。 スマホなどで気軽に写真を撮ることができたので、親子で楽しんでいる様子が見られた。 | <ul style="list-style-type: none"> 写真を撮るだけで終わるので、いきものの生態について表示をするなど工夫が必要である。 |

この平成 26 年度の成果と課題は、平成 27 年度の実践に生かすことにした。

1-2 先進地視察「かごしまメルヘン館」の視察

「かごしまメルヘン館」は、「みて ふれて 楽しむ」をコンセプトに、トリックアートなど、遊びながら童話や絵本の世界を体感できる施設である。「かごしまメルヘン館」と本館の生体飼育展示は、

展示方法が大きく異なるが、子どもたちが五感を使って楽しむ施設という点で似ている。また、対象年齢や規模も同程度である。視察でイベントの参考になる効果的な工夫を探ったところ、次の3つの知見を得た。

①参加者とスタッフが、コミュニケーションをとりながら物語を作っていく双向型（参加型）のまっしろな絵本は、子どもたちを飽きさせずある程度時間を使うことができる。

②おすすめの絵本（季節に関するもの）を展示していたことは、今しかできないものであり見どころになる。

③子どもたちが簡単に帽子やマントなどのグッズを使って絵本の登場人物に変身できるものは、見るだけでなく体験できる展示物である。

①②③については、平成27年度の実践の内、職員と参加者のコミュニケーションに関すること及び展示方法に生かすことにした。

1-3 「ほんもの体験」を味わわせる効果的なイベントの工夫の観点

1-1と1-2の結果を踏まえて、平成27年度のイベントを実施する上で3つの観点を立てた。

観点1 いきものを必ず提示すること

観点2 職員と参加者がコミュニケーションを取り合う双向型（参加型）にすること

観点3 季節を感じさせる内容とすること

第2章 工夫を取り入れたイベントの実施と分析

2-1 平成27年度のイベントの実施

3つの観点に留意しながら、「大淀川学習館で冬のいきものを探そう！」と題し、今年も4つのイベントを実施した。

①いきもののクイズラリー

参加者が館内を探検しながら展示いきものの冬に関する問題に答える。

②絵本のよみきかせといきもののはなし

職員による絵本「はらぺこあおむし」の読み聞かせの後、いきものの担当者が絵本に出てくるチョウの話をする。

③飼育担当者によるいきものはなしとミニ講座

各担当者によるいきもの（カニ、こん虫（チョウ）、アサギマダラの不思議）の話をする。

④いきものに変身！

いきものに変身できる顔出しパネル及び生態を学習できる写真などを設置する。

この4つのイベントを3つの観点で分類すると次の表2のとおりになる。

表2 3つの観点による平成27年度イベントの分類

| イベント | 観点1 いきもの | 観点2 双方向型 | 観点3 季節 |
|----------------------------|--|--|--|
| クイズラリー ①いきもの | ・カブトムシの幼虫 ・ドジョウ ・サナギ（アゲハ類） | ・参加者に声を掛けたり、一緒にいきものを観察したりする。 ・職員がクイズについて話しながら、採点を行う。 | ・季節に応じた問題を提示する。 |
| かせといきもの のはなし ②絵本のよみき | ・チョウのサナギ (アゲハ、アサギマダラ) | ・参加者の表情を見ながら読み聞かせを行う。 ・参加者に語りかけたり、質問をしたりしながら話をを行う。 | ・季節に応じた題材を選ぶ。 |
| ③飼育担当者によるいきもののはなし とミニ講座 | ・カニ (ベンケイガニ、クロベンケイガニ、サワガニ、モクズガニ) ・チョウのサナギ (アサギマダラ、アゲハ、モンキアゲハ、ナガサキアゲハ、カラスアゲハ、ジャコウアゲハ、ツマキチョウ) ・アサギマダラの成虫 | ・いきものの不思議さや生態について、クイズを出したり、話しかけたりして、参加者の反応を見ながら話す。 ・いきものや写真や映像、絵などを使い、参加者の反応を見ながら生態について興味を持たせる。 | ・カニの冬の過ごし方を知らせる。 ・展示しているチョウの冬の姿を知らせる。 |
| ④いきものに変身！ | ・オオカマキリの卵 ・ミノガ（ミノムシ） ・植物の実（ジュズ、スズメウリ、ハクサンボク、マツボックリ、ドングリ） | ・参加者に語りかけながら、顔出しパネルを促す。 ・企画を参加者と一緒に楽しむ。 ・触ることができる植物の実の体験を促す。 | ・季節に応じたいきものの顔出しパネルを準備したり、背景を工夫する。 ・季節に応じたいきものを掲示し、生態を知らせたりする。 |

各イベントとも3つの観点を活かすプログラムを構築し実践できた。

2-2 平成27年度のイベントの成果と課題

平成27年度のイベントの成果と課題について職員アンケートの結果をまとめたものが、次の表3である。

表3 平成27年度たんじょう祭の成果と課題

| | 成果 | 課題 |
|------------------------|---|---|
| ①いきものクイズラリー | <ul style="list-style-type: none"> 季節に応じた問題を提示したため、いきものを観察している様子が見られた。 職員が採点したり、参加者に声を掛けたりしたので、いきものについて驚いたことなどを共有できた。 | <ul style="list-style-type: none"> 問題の難易度だけでなく答え方にも工夫が必要である。 |
| ②絵本のよみきかせといきもののはなし | <ul style="list-style-type: none"> 絵本の内容と話の内容が同じだったので、小さな子どもにもわかりやすい内容になった。 アサギマダラの蛹を提示したので、子どもたちの表情が変わり、近づいて観察する様子が見られた。 | <ul style="list-style-type: none"> 場所や椅子などの会場設営について、検討が必要である。 |
| ③飼育担当者によるいきもののはなしとミニ講座 | <ul style="list-style-type: none"> カニに触れる体験をしたので、怖がりながらも触ってみようと挑戦する様子が見られた。 アゲハのサナギを提示し、中は液体になっていると話をしたので、触感と中身の違いに勉強になったと話す子どもが見られた。 クイズを出したり、話しかけたりして、参加者の反応をみながら進めたので、興味を引くことができた。 アサギマダラのサナギを提示したところ、サナギの色がきれいと話す参加者の様子が見られた。 | <ul style="list-style-type: none"> いきものを触ることが苦手な参加者もいるので、触れさせ方にも注意が必要である。 決められた日に生体を必要数準備するのは難しいため、内容を十分検討する必要がある。 参加者に向けて、話しかけたりクイズを出したりしながら進めるためには、参加者が落ち着く環境（椅子など）が必要である。 |
| ④いきものに変身！ | <ul style="list-style-type: none"> 季節に応じたいきものの顔出しパネルを設置したところ、子どもも大人も楽しみながら、写真を撮っている様子が見られた。 季節のいきものの生態を知らせるめるパネルは、子どもたちが積極的にめくり、学習している様子が見られた。 いきものを提示したため、観察している様子がみられた。 | <ul style="list-style-type: none"> 展示しているいきものを触ったり、観察したりする「ほんもの体験」の促し方を工夫する必要がある。 |

3つの観点を基に実施した結果、多くの成果を得ることができた。しかし、いきものを触れる時の注意点や生体の準備などの課題も残った。

おわりに

今回、ほんもの体験を味わわせるために3つの観点で工夫を行った。参加者は、絵本やパネル、クイズなどで「楽しんで！」いきものの生態を学び、「みて！ふれて！」という五感でいきものの不思議さを体験した。

今後は、「実際にいきものに触れて何をどう感じたのか」、「いきものの生態について知ることができたのか」など参加者からアンケートをとり、イベントを継続発展させていきたい。

最後に、今回職員全員で協力しアイディアを出し合いながら、企画・準備できたことも大きな成果であったことをつけ加えたい。

引用文献・参考文献・参考資料リスト

- 1) 「この本 読んで！」 編集部、季節別・年齢別 おはなしプログラム PART2、NPO 読書サポート 2014.3.1
- 2) かごしまメルヘン館 <http://www.k-kb.or.jp/kinmeru/> (参照日：2015/10/18)